

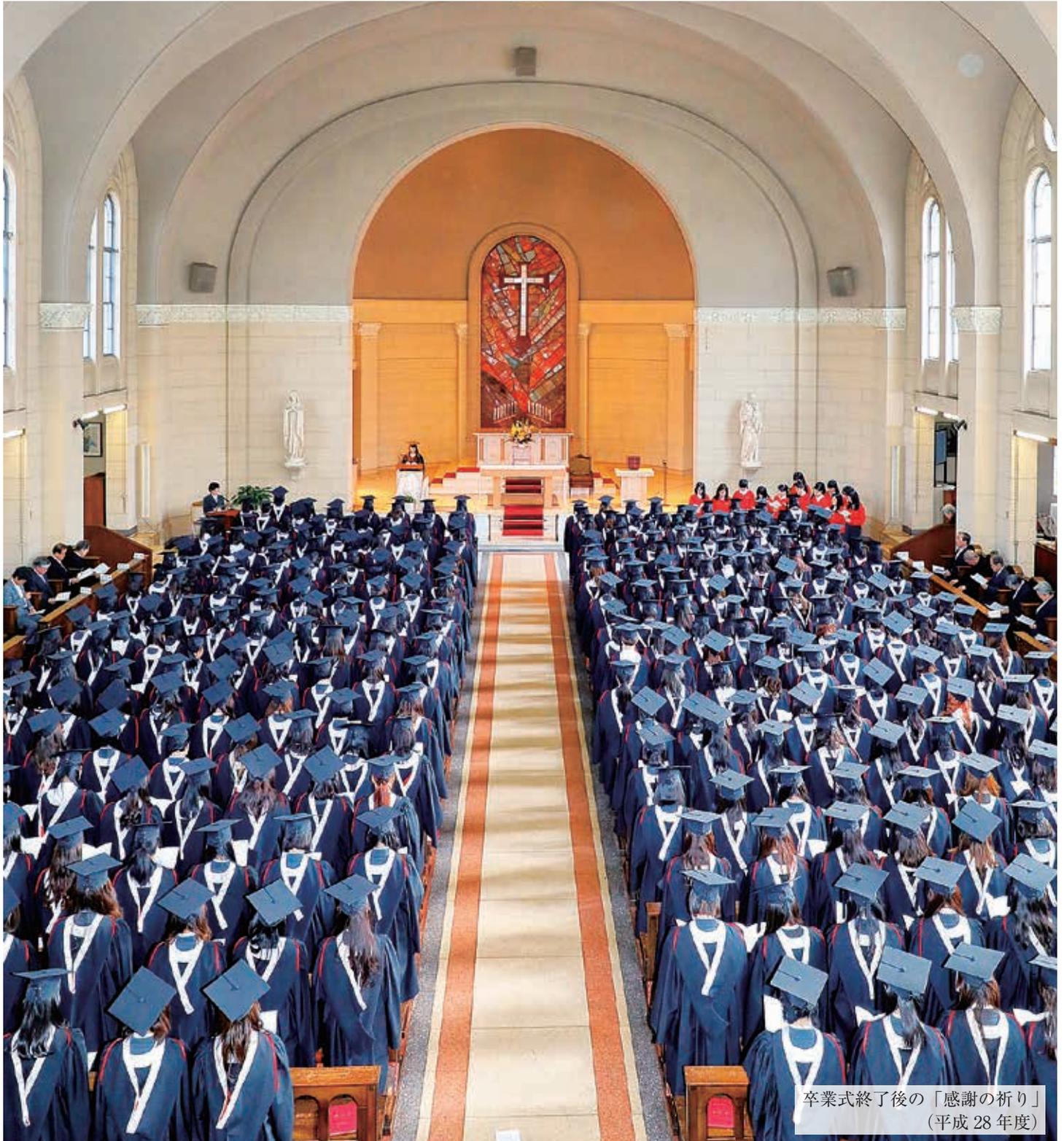


# 聖心キャンパス



## 第213号の主な記事

- ・平成29年度卒業式式辞
- ・退職教員挨拶
- ・新卒業生に聞く
- ・Campus News
- ・聖心女子大学のあゆみ⑤
- ・聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞
- ・聖心女子大学学長賞
- ・新学寮OPEN 等



卒業式終了後の「感謝の祈り」  
(平成28年度)



聖心女子大学長 岡崎 淑子

本日、聖心女子大学を卒業なさる皆様、おめでとうございます。ご父母の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。本日の卒業式は、改修したマリアンホールでの初の式典となります。マリアンホールは、学生にとって、また教職員や卒業生にとっても、本学の伝統を象徴する建物として愛着をもたれています。建物正面の、ファサードの上には、聖心女子大学の大学名がラテン語で Studiorum Universitas Sacratissimi Cordis と刻まれています。普段はこの文字にあまり目をとめられなかったかもしれませんが、今日はこの下で卒業記念の写真を撮られる方も多いでしょう。

ラテン語で Studiorum Universitas は「大学」のことですが、それに続く Sacratissimi は英語の Sacred「聖なる」の最上級、「最も聖なる」という意味です。そして Cordis は英語では Heart「心」ですから、「最も聖なる心の大学」となりますが、本学の日本語名称はこれに女子が入って「聖心女子大学」となっています。

Sacratissimi と最上級になっている「最も聖なる心」とは、キリストの心を指しています。聖心女子大学の教育理念「一人ひとりの人間をかけがえない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び…」という文言のもとにはここにあります。

新約聖書は、キリストが、様々な人々と交わり、どんな人も差別や偏見なしで迎え入れられたことを伝えています。「あなたの敵を愛しなさい」というキリストの言葉はよく知られています。聖なる心」と最上級で示したと考えられます。聖心女子大学の教育理念の基本は、一人ひとりを、誰にも代えられない大切な人として、それぞれの違いを尊重して共に生きることであり、キリストの生き方、心を模範としていきます。この理想は、皆様卒業されてからも生涯の生き方の指針とし忘れてはならないものです。

さて皆様が社会人として生きていく現代社会が今後どのような変化を遂げていくか、その速さも方向性も想像し難いものです。地球環境、産業構造、生活スタイル、コミュニケーションや人間関係のあり方なども大きく変化していくでしょう。そのような不確実性の中で、必要なことの1つは「発想の転換」であり、想定不可能なことに対する判断力と柔軟性でしょう。

私は昨年、全盲の文化人類学者からお話を聴く機会がありました。国立民族学博物館准教授の広瀬浩二郎先生です。13歳のときに失明、盲学校で学ばれて後、京都大学で博士号を取得されました。多くの著書の中から「人が優しい博物館」という題名の本を紹介されました。「人に優しい○○」、たとえば、「人に優しいユニバーサル・デザイン」などと言いますが「人が優しいユニバーサル・デザイン」とはあまり言わないので、発想の転換を迫られました。

国立民族学博物館には、広瀬先生が中心となって準備された「世界をさわる」コーナーが設けられており、そこでは展示資料を手でさわることができます。普通は大切な資料にさわられることは禁止になっていますが、ここでは展示物にさわることが奨励されています。例えば木彫の鳥であれば小鳥のように小さなものは指先を使ってさわっていく、カラス位の大きさであれば手のひら全体でさわっていく、羽を広げると1メートルにもなるような大きな鳥であれば、腕を広げ、体の向きを替えてさわっていく、ゆっくり時間をかけ、目に見えない部分を想像しながらさわっていくようにと先生はおっしゃ



いました。五感の中でとかく視覚偏重である社会における発想の転換です。視覚障害をもっていない人たちも、目を閉じて展示資料にさわったり、目を見ながらさわってみたりすることで発想の転換が促されています。展示物から距離をおいて目で見ると、自分の手で直接さわるとでは感じとれるものに違いがあります。

広瀬先生は、この「世界をさわる」コーナーを「さわるマナーを育む拠点にしたい」と、そのコンセプトを次のように語られました。展示されているモノの背後には、それを「削り」、使っている人、伝えてきた文化」が存在する、つまり、一つひとつのモノには「目に見えない物語」がある、そのモノを注意深くさわって、その「見えない物語」を実感し、追体験すると、必然的にモノとの接し方は変わってくるのではないかと、乱暴に扱うことはできない、「世界をさわる」コーナーでは来館者にそのような優しさが期待される、と。大量生産、使い捨て、効率主義の時代だからこそ、特に未来を担う子供たちには「一つひとつゆっくり丁寧にさわるマナー」を身につけてもらいたい、重要なのは、展示物にさわることから、人と物、人と人のコミュニケーションのあり方が問いなおされることである、と伺い、「人が優しい博物館」という題名はとても意味深いと思いました。

目が見える人と、見えない人は互いに「異文化」を生きているということから、共生社会における異文化交流、異文化コミュニケーションで見過ごされがちな点にも気づかされました。

現代社会に住む人々が多様化した、複雑化が進む中で、「一人ひとりの背後にある、目に見えない物語」を尊重し理解しようとする優しさをもった人がいる社会、「人が優しい社会」へと変革していくために、そうした異文化を受容し、交流を深めていくことは生涯の課題です。皆様は本日卒業されて、新しく仕事に就く方、勉学、研究を続

ける方、大きな希望と期待を持って出発されると思いますが、自分のごく身近なところであれ、グローバルな課題の解決に関わるような場であれ、原点は、一人ひとりがそれぞれの場で「人が優しい社会」の一員となり、リーダーシップをもって、その心を広げていくことです。現に先輩である本学の卒業生の中には、「人が優しい社会」を実現させるためにさまざまな分野でリーダーシップを発揮しておられる方が数限りなくいらっしゃいます。

「Sacratissimi Cordis（最も聖なる心）」と刻まれたマリアンホールの建物が聖心女子大学の伝統のシンボルであるように、卒業生となる皆様がその精神を生き、「自分の物語」を大切に、様々な人々、一人ひとりの物語」を尊重して、ともに生きる「人が優しい社会」の実現に貢献されますようにと期待いたします。

最後に、聖書の中の詩編の祈りをもって皆様をお送りしましょう。

主がすべての災いを遠ざけて  
あなたを見守り、  
あなたの魂を見守ってくださいように。  
あなたが出た立つのも帰るのも、  
どのような時にも、  
主が見守ってくださいように。  
今もここに。

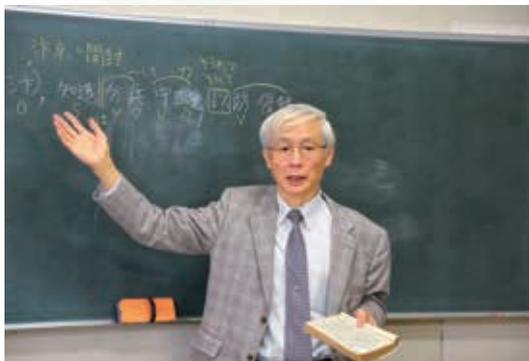


注 広瀬浩二郎編著「ひとが優しい博物館 ユニバーサル・ミュージアムの新展開」(青弓社、2016年8月)

# ご退職の先生

これまでのご功勞に敬意を表するとともに、心から感謝いたします。  
ありがとうございました。

## 史学科 味岡 徹 先生



1991年に着任して27年が経ちました。その前に3年間非常勤講師を務めましたので、これを合わせると聖心に30年通ったこととなります。

大学教員の仕事は主に教育と研究とされています。聖心での研究は楽しいものでした。とくに大学図書館の書庫で史料類を読むのが楽しかったです。しかしそれ以上に楽しかったのは授業です。その楽しさの理由は、1つには研究したことを学生の皆さんに伝えられるからですが、もう1つには学生の皆さんの内面にある力を見せてもらえるからです。

とくにゼミで卒業論文を書く4年生は、春、夏にはテーマの選択で迷ったり、先達の研究成果の使い方が分からなかったりしていても、秋以降になると自身の力で原稿を書き、そこに私が思いつかないような観点を組み込みます。当初心配ばかりの私は、少しずつ安心の度合いを増し、卒業論文の完成時には、4年生の本当の力を知って驚きます。これを20数回も経験できたことはしあわせでした。

2年間という期間ではありましたが、聖心女子大学に奉職させていただき有難うございました。なにかと不行き届きな点があり、大学に貢献したとはとても言えない勤めでしたが、同僚の先生方、職員の方々、そして学生の皆さんのお力添えに支えられて何とかゴールが見えてきたようです。ここで、本学で貴重な時を過ごしたことによって刺激された私の考えを申し述べさせていただきます。私の専攻は、ドイツ文学です。この分野を貫く主題を私は、魂と形式の連関だととらえてきました。その点で本学は、実に刺激に富んだところだったといえましょう。いうまでもなくここにはカトリック精神がまさに魂と形式として生きているのが感じられるのです。外部から門をたたいた私には、形式感の素晴らしさ、すなわち格調の高さが誠に印象深かったのですが、同時に内面的なもの、内発的なものの重要性にもあらためて目を開かれました。この魂と形式との不即不離な関係性こそ、宗教に留まらず、学問、研究、そして個人と社会における生活を生かすものだと思えられました。有難うございました。

## 国際交流学科 平野 篤司 先生



## 聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞

本学では、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部生に対して、褒章を行っております。

受賞者は当該年度の卒業式において表彰され、学長より賞状および副賞が授与されます。

平成29年度受賞者は、次の3名です。

英語英文学科	4年	衛藤 ジョセフィン
日本語日本文学科	4年	一瀬 奈央
国際交流学科	4年	増田 京美

## 聖心女子大学学長賞

聖心女子大学学長賞は、学術研究活動、課外活動、社会活動等で特に顕著な成果を挙げた学生または学生団体を褒賞するものです。

平成29年度受賞者は、次の3名です。

英語英文学科	2年	多賀 千尋
日本語日本文学科	2年	松藤 あかり
国際交流学科	2年	佐々木 初奈子

\*受賞者の言葉は、次号の聖心キャンパス第214号（5月下旬発行予定）に掲載予定です。



聖心会創立者  
聖マグダレナ・ソフィア・バラ  
(1779~1865)

# 新卒業生に聞く



新卒業生のみなさんに左記の項目についてお聞きしました。  
氏名の右は学科専攻名、左は在学中所属していた課外活動団体名等です。

## 英語英文学科

根崎 美翔子

チアリーディング部  
HEARTIES



① 仲間に囲まれチア部で活動したことが一番の思い出です。信頼関係を育みチームとして動く難しさや何かを継続する大切

さを学び、部活動と勉学の両立に励んだ4年間でした。

② 教職員の方々や学生の距離が近いため研究内容や卒業論文、進路に対して一人ひとりの相談を親身に聞いて下さる人の温かさはとても聖心らしく、一番の魅力であると感じます。

③ 大学生生活は自由な時間が多いです。学生時代はこれを学んだ、これを頑張ったと胸を張って言えることを一つでも作り時間を有効活用した上で有意義な4年間を過ごして下さい。

④ 信託銀行に勤めます。銀行業務に加え不動産運用や相続といった信託業務も担い、幅広い分野での活躍が求められる環境においてゼミで培った英語力を活かして頑張りたいです。

## 哲学科

坂口 可南子

聖心Radio Station



① 所属していたラジオ部で、広尾商店街での活動に携われたことです。商店街の方々の交流を通して、貴重な経験を積むことができました。

② 学科専攻が決定する2年次以降も、他学科の授業を受けられることだと思います。自分の興味関心に合わせて幅広い学びが可能になるのは聖心の最大の魅力のひとつです。

③ 大学生にとって「時間」が一番の武器です。自由に使える時間を最大限に活かして、どんなことにも全力で、そして、周囲に流されずに貴方だけのかけがえのない学生生活にしてください。

④ 都内の建築・不動産会社に就職予定です。自分の役割とは何か、何を求められているのか、きちんと理解しながら他者の気

持ちを汲めるような社会人になりたいです。

## 日本語日本文学科

石丸 ななみ

日文委員



① 文学や日本語について多くのことを学び、充実した学生生活を送ることができました。演習と研究法実習の授業では、ディスカッションを通して毎回新しい発見があり、自分の考えを深めることができました。

② 先生方の丁寧なご指導が一番の魅力です。質問をしたとき、先生方は答えや一般論ではなく考え方のヒントを教えてください。主体的に学ぶことができました。

③ 学業やアルバイト、クラブ活動などで多忙な日々を送っている方が多いかと思いますが、好きなことや楽しいことをたくさん見つけて、自分らしい学生生活を送ってください。

④ 卒業後は、お菓子を扱う会社に入社します。自分を支えてくれていた人々たちへの感謝の気持ちを忘れず、向上心を持って、自分にできることを増やしていきたいと思っています。

## 史学科

近藤 未那

年鑑編集委員会



① 様々な分野の講義、ゼミ、学芸員実習を通して、自分の興味の所在を明らかにして知識を深めることの楽しさを実感できた4年間でした。そして委員会の長としての経験は、社会人になる上での大きな糧となりました。

② 幅広い分野の中から自ら選択し少人数指

導の下で学ぶことができる点です。親身になってくださる先生が大勢いらっしゃる、人の温かさが感じられる大学です。また、四季折々の自然や美しいパレスも魅力の一つです。

③ 友人を大切にしてください。社会人になるとなかなかまとまった時間が取れませんが、意識なくとも友人に会える大学という環境を大切に、学生生活を後悔のないよう楽しんでください。

④ 法律事務所で秘書として勤務いたします。周囲を良く見て能動的に仕事ができるよう努めてまいります。自分だけでなく周囲も高められるような人間を目指し、精進して参ります。

## 国際交流学科

田辺 優希

聖心祭実行委員会(公演セクション)・茶道愛好会



① 様々なことに挑戦し続けた4年間でした。委員会活動では、公演の企画から実行を通じてチームで一つのものを作り上げる楽しさと難しさ、社会と繋がる責任の大きさを実感しました。その他にも陸前高田でのボランティアや韓国での学生会議への参加、国際政治学会や学内イベントのお手伝いなど様々な経験をする事ができました。

② 幅広い学問領域を少人数制指導のもとで学べる、恵まれた学習環境です。所属する国際政治学ゼミでは、先生との距離が近く、学生の関心を尊重した幅広いテーマの研究や国際問題に関する議論、大使館や米軍基地への訪問など非常に貴重な経験ができました。また、副専攻や交流学生制度なども積極的に活用しました。

③ 大学での4年間は、勉強や課外活動をはじめ様々なことに挑戦できる大変貴重な

時間です。何事にも一生懸命に取り組むことで、多くの出会いに恵まれ、貴重な経験ができると思います。挑戦することを大切に、学生最後の時間を有意義なものにしてほしいです。

④卒業後は政府系銀行に就職します。聖心の恵まれた環境のおかげで、国際社会に貢献できる人材になりたいという入学当初の想いを一貫させることができました。大学時代の様々な経験、聖心スピリッツを糧に精進してまいります。

心理学科

村岡 果歩

聖歌隊



①聖歌隊、ANNY軽音楽部、他大学の団体の計3つのサークルに4年間所属し、学業と両立させ、充実した日々を過ごしました。各イベントで成功を取めた際の感動は一生忘れないと思います。

②自分がやりたいと感じたことを実践できる環境です。卒業論文では、過去にはあまり研究されなかった幼児の歌声の発達過程について、先生方の親身なご指導のもと、まとめることができました。

③大学生だからこそできること、やりたいことを見つけて何度でも挑戦してみてください。さまざまな挑戦から多くの学びが得られるだけでなく、失敗も必ず糧となります。

④金融機関系のIT企業に就職します。大学生生活で学んだ心理学やマネジメント力を活かしつつ、情報処理の勉学に励み、プロジェクトマネージャーを目指してまいります。

人間関係学科

上徳 萌樺

リタジーサークル、茶道愛好会



①やりたいこと全てに挑戦した濃密な4年間で。勉学面では台湾への半年間の交換留学と4年の卒論研究が、部活動ではリタジー部員として過ごした日々が印象に残っています。

②聖心女子大学には、それぞれ個性的人や物事に対して真摯に向き合える人が多いと思っています。多種多様な人達が集まって、心地よく穏やかな雰囲気を作っています。

③挑戦してみたいことがあるなら何でも大学生のうちを試してみてください。周囲を見回したら家族や友人や大学の皆がきつと助けてくれます。今の立場と環境をフル活用してください。

④外資系コンサルティングファームの総合コンサルタントとして就職致します。大学で学んだことや身に着けたことを、社会人になっても忘れず生かし続けたいです。

教育学科 教育学専攻

原田 花

硬式庭球部



①様々なことに挑戦した4年間で。その中でも一番の思い出は、硬式庭球部で過ごした時間です。監督やコーチのご指導のもと、目標に向かって部員と支え合いながら過ごした日々は、私にとって一生の宝物です。

②聖心の魅力は、人の温かさだと思います。どんな状況でも温かく応援してください。庭球部OGの皆様、ゼミで親身にご指導くださった教授と支え合った仲間たち。

たくさん温かさに触れ、私も優しい人間になりたいと思うようになりました。

③私は教育学科に所属しながら日本語日本文学科の日本語教員課程を履修し、実習では貴重な経験をさせて頂きました。ぜひ興味があることに積極的に挑戦して、充実した学生生活を送ってください。

④卒業後は、航空会社に就職する予定です。人の役に立てるよう、広い視野で物事を考えられる社会人になりたいです。また、庭球部のOGとしても、私がしていたように温かく部員を応援し続けたいと思います。

教育学科 初等教育学専攻

筒井 友里恵

(他大学運動会ヨット部)



①4年間続けたヨット部での活動です。毎週末の合宿生活と学業の両立は大変でしたが、仲間たちと夢を追いかけた時間は私の大きな宝物です。夢が叶い、今年度33年ぶりに全日本に出場することができました。

②先生方や副手の方々がいつも温かく迎えてくださるところです。授業だけでなく普段の生活に関しても親身に相談に乗ってください、安心して学生生活を送ることができました。

③大学4年間は想像以上にあっという間で。今周りにいる人を大切に、自分の興味関心に対して貪欲に、沢山笑って1日1日を充実した素敵なものにしてください。

④4月から私立小学校の教員として就職いたします。小学校時代から夢みてきた環境で、子どもたちと共に日々成長し、理想の教師像に少しでも近づけるよう頑張ります。



平成28年度 トーチライト・プロセッション



平成28年度 トーチライト・プロセッション



平成28年度 感謝の祈り



卒業記念品について

第68回卒業生から、車椅子、課外活動用ロッカーが寄贈されました。

学生事務部学生生活課

## 渋谷区4大学包括協定が締結されました



渋谷区内に所在する4大学、聖心女子大学（渋谷区広尾）、青山学院大学（渋谷区渋谷）、國學院大學（渋谷区東）、実践女子大学・実践女子大学短期大学部（渋谷区東）は、12月19日（火）、包括協定を締結し、締結式を青山学院大学で行いました。

この協定は4大学が連携・協力することで、各大学の持続的な発展と多様な価値観に基づく新たな価値の創造に寄与することを目的としたもので、世界が注目する国際都市・渋谷から教育・研究・国際交流・スポーツなどを通じ社会に成果を還元するものです。

今後4大学は、大学間の連携事業の円滑な推進を図るため、連携協議会を設置し、積極的に協議していきます。

## 第43回フランス語スピーチコンテスト

2017年12月1日、宮代ホールにて、「第43回フランス語スピーチコンテスト」が開催されました。このコンテストは、フランス語の科目を履修している1年生と2年生の学生たちが、暗記したフランス語の詩や物語を朗読し、日頃の学びの成果を発表するもので、毎年開催されています。

今回は、ケベック州政府在日事務所代表のルシ・トランブルー様、フランス語講師のルディビン・シモナン先生とジュリー・マゼ先生をお招きして審査をお願いし、優秀賞には、1年生部門に比屋根有美子さん、2年生部門に国際交流学科の佐々木初奈子さんが選ばれました。

今年は特に1年生の参加者のパフォーマンスが見所でした。緊張しているにもかかわらず、気持ちを込めて、第二外国語であるフランス語の言葉をとても自然に朗読しました。2年生は、自ら見つけた詩をフランス語で解説した後、朗読しました。学生はフランス語とフランス文学に非常に興味があると感じました。

スティーブ コルバイユ（国際交流学科・准教授）



## 宮代会だより

新卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。皆さまを宮代会第68回生としてお迎えできることを大変嬉しく思います。社会に巣立っていかれる皆さまを宮代会は同じ学び舎での思い出を分かち合える場として、お待ちしております。

宮代会は聖心女子大学同窓会として現在2万5千人余りの会員を抱え、国内の姉妹校、8同窓会と共に日本聖心同窓会（JASH）のメンバーです。国内には12支部、海外にも5支部あり、世界聖心同窓会（AMASC）の一員として海外にも繋がっています。

宮代会は「会員の親睦」「母校への協力」「社会貢献」の三つの柱のもと、大学構内南門を上ったところにある宮代会館を拠点として活動しております。

会館は書道、華道、ティーセレモニーなどのお稽古を通し会員の親睦の場としてもご利用いただいております。各種OG会も宮代会を通して世代を超えた交流が行われております。

母校への協力としては在学生対象の「宮代会特別奨学金」（学業優秀な学部生3名）、「宮代会奨学金」（学業優秀な大学院生1名に2年間）、「エリザベス・ブリット基金奨学金」（経済的支援を必要とする優秀な学部生2名）、また卒業後年齢に制限なく学びたい宮代会会員を支援する「さくら奨学金」（公募2名）を給付しています。

社会貢献は、会員から寄せられた古着、古切手の整理運用、点字サークル、拡大製本、縫製奉仕などの活動を通じて行っています。

こうした宮代会の活動は毎年1月発行の同窓会誌「宮代」、4月発行の「宮代会ニュース」に記載しておりますのでお手元に届きましたらご覧ください。大学ホームページの「卒業生の皆さま」の欄にも随時アップしております。

どうぞ宮代会をご利用、またご協力くださいませ。



## 第17回 カトリック女子大学 総合スポーツ競技大会

2017年11月25日(土)、26日(日)

会場：聖心女子大学

カトリック女子大学総合スポーツ競技大会は、聖心女子大学、京都ノートルダム女子大学、ノートルダム清心女子大学、白百合女子大学、清泉女子大学の5大学がスポーツを通して大学間の交流と親睦を深める目的で開催されています。

今回は2018年12月15日、16日にノートルダム清心女子大学で開催予定です。



今年は3年に一度の本学開催ということでプレッシャーを感じておりましたが、見事総合優勝を果たすことができ、種目を超えた団結力を実感致しました。また、私たち硬式庭球部は11年連続優勝という記録も更新することができました。同じカトリックという共通点を持つ学生同士で、スポーツを通じて親睦を深められたことを大変嬉しく思っております。

大会開催に向けて尽力してくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。来年度の大会は、岡山県にあるノートルダム清心女子大学にて開催されます。先輩方から受け継いできた大会への熱い想いを後輩たちにしっかりとつなぎ、来年度に向けて今後とも練習に励んで参りたいと思っております。

硬式庭球部 3年 板橋 彩

前回、優勝を逃してしまった私達にとっては思い入れの強い大会であり、部員一同なんとしても優勝したいという強い気持ちで日々の練習に取り組んで参りました。その結果、一人ひとりの熱い思いとチームワークが結実し、見事優勝を果たすことができました。チームで喜びと感動を分かち合えたこと、今大会を最後に引退する四年生を最高の形で送り出すことができたことを、大変嬉しく思っております。

再び優勝を勝ち取る為にサポートしてくださったスタッフ、OG、先生方、全ての皆様に感謝申し上げます。連覇に向け、今後とも部員一同精進して参ります。

バスケットボール部部长 田中 杏実

### はばたけ聖心プロジェクト

建学の精神に沿った学生の社会貢献活動を奨励し、資金的に支援する奨励金制度「はばたけ聖心プロジェクト」に、以下の2団体が採択されました。

#### SHOC (Sacred Heart Organic Cotton) Project

「支援からコラボへ」という理念のもと、学内でコットンの育成や福島の実況の啓蒙活動を行い、福島の復興活動に寄与する。

#### はなはな SDGs

国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)の存在を、動画作成や姉妹校への授業等によって広め、SDGs達成に必要な花を本学学生が鳥となって世界に運んでいくことを目標とする。

## 平成30年度「聖心女子大学キリスト教文化研究所教養ゼミナール」開講

平成30年度も、キリスト教文化研究所主催の「教養ゼミナール」が開講します。大勢の皆様の受講をお待ちしております。

教養ゼミナール名(担当者名)	
世界の聖地紀行(吉澤 五郎)	アウグスティヌス『神の国』を学ぶ(加藤 信朗)
宗教改革と音楽(金澤 正剛)	文学と人生(鈴木 秀子)
聖書翻訳の歴史:『詩篇』の和訳(中井 純子)	アガペー研究(遠藤 徹)
シェイクスピア講読(道家 弘一郎)	キリスト教講座(荒川 博行)
ヨハネ福音書を読む(田邊 董)	日本文化とキリスト教(山崎 渾子)
『源氏物語』『宇治十帖』を読む(原岡 文子)	キリスト教美術を見る眼(安發 和彰/高野 禎子)

※開講日時等詳細は公式ホームページ並びにパンフレットをご覧ください。

※【予告】現在、2018年度オムニバス講座を企画中です。詳細が決定次第、公式ホームページでお知らせいたします。

〈お問い合わせ、パンフレットのご請求、お申込み〉

聖心女子大学 キリスト教文化研究所事務局 電話・FAX: 03-3407-6089 (平日10:00~17:00)

メール: kiriken@u-sacred-heart.ac.jp 公式ホームページ: <http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/christ.html>

## 「学生からの質問～日本にいる難民の現状と課題」

2018年 1月16日



1月16日ブリット記念ホールにおいて「学生からの質問～日本にいる難民の現状と課題」のシンポジウムがグローバル共生研究所、並びに国際交流学科、そして学生活動団体 SHRET の協力のもと学生約200名、一般の方約30名が出席し開催されました。

当日の進行は学生が事前に考えた質問に対して、パネリストが答える形式で進められ、講演後も来場者から活発な質疑応答が行われました。パネリストには、法務省の菱田泰弘氏を始めとして、難民審査参与員・池上清子氏、難民支援団体理事長・吹浦忠正氏、UNHCR 難民奨学金大学生・ホワ ガム ラット ゾウ氏、UNHCR 駐日事務所・川内敏月氏（登壇順）など、多方面からの参加を得、現場の生の声を聞くことができました。

聖心女子大学  
グローバル  
共生研究所

## グローバル共生講座「災害ボランティア入門講座」を開催しました

2017年11月21日



11月21日4号館において、同日2回にわたり一般社団法人ピースボートボランティアセンターの合田理事を講師に、災害ボランティア入門講座を開催、本学学生、教職員はじめ一般の方等含む22名が参加しました。

東日本大震災や熊本地震などでボランティアの活躍が目される中、ボランティアとしての心構えとともに、安全に活動するための基本を学びました。

受講者の感想として、もっと知りたい。ボランティアされる側の気持ちがわかった。ボランティアに気合だけで参加するのは駄目だとわかった。ボランティアすることへ背中を押されたような気がする。等、ボランティアに一歩踏み出す人への意義ある時間となりました。

## 学生課外活動団体 園芸クラブ Green Thumb



## 学生食堂 カフェ・ジャスミン



本学に Green thumb club が立ち上がったのは8年前。Green thumb (緑の親指) とは園芸名人を意味します。グリーンアドバイザーの高浜真理子さんのご指導のもと、学内の落ち葉を土に返しながらか、完全無農薬で年間に20種類以上の野菜や宿根草、ハーブを育てています。

この度、カフェ・ジャスミンと協働して、私たちが心をこめて育てているハーブのお茶をメニューに加えていただくことになりました。季節に応じて、種類もかえていこうと思っています。どうぞ身体に優しいハーブティーをお楽しみください。

火曜木曜の昼休みが活動日。植物は人の足音を聞くとよく育つと言われています。どうぞ南門近くの段々畑にも遊びにいらしてください。部員一同お待ちしております。



ハーブティ ¥ 350  
Green Thumb ブレンド

学生食堂  
カフェ・ジャスミン

\* 営業時間 \*

11:30 - 21:00 (月 - 金)

11:30 - 21:30 (土)



## 【グローバル教育環境整備募金】

「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性を育成する」という使命達成に向け、4号館（新棟）の整備、新学寮の建設など大規模なキャンパス整備を実施しています。このため、2017年1月より3カ年にわたり、皆様方からのあたたかいご支援をお願いしております。

### ■ご寄付の状況（2017年12月末日現在）

件数：587件

総額：136,744,431円

寄付者ご芳名（2017年10月～2017年12月末）

グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。なお、ご芳名は掲載に同意いただいた方のみとなります。

#### 【掲載要領】

1. ご芳名は、上記期間に寄付申込書のご提出とご入金の確認が取れた方々について、お送りした領収証の宛名に記載の名義で掲載しております。なお、敬称は省略させていただきました。
2. 金額掲載に同意された方については、金額別に五十音順で掲載しています。金額掲載に同意されていない方については、「ご芳名のみ」として五十音順に掲載しています。なお、芳名録への掲載に同意されなかった方につきましては、匿名として件数のみ掲載しております。
3. 団体・法人については、代表者等のお名前は省略させていただきました。

#### ■5,000,000円

秀和ビルメンテナンス株式会社  
秀和アソシエイト株式会社  
株式会社竹中工務店

#### ■1,000,000円

遠藤 泰男  
小林 一雅  
志村産業株式会社  
丸電工業株式会社

#### ■500,000円

味岡 徹

#### ■346,935円

宮代会

#### ■300,000円

安宅 比那子  
服部 悦子

#### ■200,000円

印出 忠夫  
株式会社コクエイ  
高島 英里子

#### ■187,360円

宮代会 フィーユ・ド・サクレクール

#### ■100,060円

宮代会 ジャバドラOG会

#### ■100,000円

石田 文代  
上野 愛子  
小野 悟  
草野 満夫  
黒田 幸子  
中曽根 真理子  
古谷 佳代子

ミマス株式会社

吉田 卓郎

#### ■74,000円

宮代会 ミュージカル研究会 OG会

#### ■50,000円

伊藤 きよゑ  
尾崎 仁  
神野 啓子  
有限会社真和商事  
中嶋 和子  
武藤 愛子

#### ■30,000円

浅野 恵子  
加藤 香詠子  
株式会社シルバーチャンネル  
野口 喜美代

#### ■10,000円

三共ドライクリーニング株式会社

榎田 桂子

#### ■ご芳名のみ

足立 建一郎  
オーエーリックス株式会社  
岡田 明子  
株式会社コア・ドライビング・フォース  
興和株式会社  
金剛薬品株式会社  
ジャネット啓子カワズジ  
白石 喜久子  
株式会社帝国ホテル  
中谷 美保子

株式会社西口校具製作所

表示灯株式会社  
富士工業株式会社  
伏見興産株式会社

船木 直也  
株式会社文協

松尾 麻里  
水崎 晶子  
宮田 省吾  
村上 直子  
村上 満雄

株式会社ユニオンアート・プロダクト

弓崎 雅美  
吉川 徹志

■匿名 22件



### ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

#### 【募金に関するお問い合わせ先】

聖心女子大学経理部／電話：03-3407-5811（代表）

E-mail: keiribu@u-sacred-heart.ac.jp

#### ●寄付金ホームページ URL：

<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html>

（「聖心女子大学 寄付金」で検索してください）

※ Web 画面からの申込み・クレジット決済も可能です。



# 新たな飛躍に向けて

## 「聖マグダレナ・ソフィアの心を心としたい」

—第5代学長 中川 徹子

中川徹子学長（1993年～2001年）は1998年の創立50周年に向けて学内に50周年記念事業委員会を設け、教学、施設、設備面で時代の要請と学生たちのニーズに応える変革を目指した。記念事業の柱の一つとしたのが新棟（3号館）建設である。開学当時から多くの学生、卒業生に親しまれた「クニハウス」（旧久瀨宮邸本館）は老朽化が進んでいたが、車寄せ及び玄関広間とその左右の部屋を改修保存し、その他の部分を撤去した跡地に地上5階、地下1階建の3号館を建設した。教室、研究室、小ホール、学生部関係のオフィスなどの他に地下1階には「クニハウス」にあったクラブの部室が入った。1998年9月30日の竣工式（祝別と感謝の祭儀）では司式のルーメル師が、聖心では開学当初から建学の精神に基づく「心の教育」が行なわれており、豊かな人間性を育てる課外活動の拠点ともなる3号館は「建学の精神を培う上からも大変意義のある建物だ」と語った。

中川学長は聖心女子大学の独自性を創立者聖マグダレナ・ソフィアによる信仰を基盤とした教育理念に求め、「自分と他の人の生命を大切にし豊かに育むという聖心の人間形成の伝統」を重んじた。21世紀の社会に貢献できる知性と人間性豊かな自立した女性を育成することを本学の使命とし、その助けとなる新棟の建設事業に力を注いだ。

（総務部担当課長 飯田 洋子）



クニハウス（ポーチ側）（1996年）

聖心女子大学蔵

開学当初、クニハウスは学長室、事務室、接客室、仮図書室が入る大学の中枢部であった。夜はインターナショナルスクールの父母会、寄宿生の談話室や食堂、勉強室などとして昼夜の役割を分けて四六時中活用されていた。また当時の日本では数少ない国際交流の場でもあった。大学の建物が整備されるのに従い、少人数の授業やプライベートレッスン、学生のティールーム等として、その後は学生のクラブ活動の部屋として使用された。

### 聖心会総長の来日

（1997年）

第14代総長シスター パトリシア ガルシア・デ・ケバド（1994年～2000年）が視察のため7月に来学。学内LANやインターネットの導入など、情報化への対応状況も視察した。



聖心女子大学蔵

### 3号館の起工式（地鎮祭儀）

（1997年5月8日）

鎮物（しずめもの）として磁石、聖母像、十字架、ふしぎのメダイ、聖ジェラルド・マジェラのメダイなどが用意され、司祭の祝福を受けた後、鎮物用の穴の中に納められた。



聖心女子大学蔵



# 平成30年度より 保育士養成課程 開設予定



## 質の高い 保育者養成を 目指して

4年間の準備期間を経て、この春、いよいよ保育士養成課程がスタートする予定です。

昨年度の文部科学省の調査によれば、現職保育者の幼稚園教員免許と保育士資格の併有率は80%を超えました。両方を持つことは、今後保育者の必須条件になるでしょう。

これまで教育学科では、人間愛に溢れ、豊かな感性と表現力をもった小学校・幼稚園教員の養成を行ってまいりました。この実績を土台にし、乳児からの発達理解と保育、子育て支援等を学べる充実したカリキュラムを編成しました。木の温もりに溢れた子育て支援室も新設しましたので、学生と乳幼児が触れ合う機会を作り、理論と実践の両輪を大切にしていきます。これからの時代、保育者には高度な専門性が求められます。グローバルな視点をもった保育者の養成は、聖心女子大学ならではの強みといえるでしょう。

聖心女子専門学校の蓄積を大学が引き継ぐことは法人の構想でもありました。受け取ったバトンをしっかり握りしめ、さらに発展させながら質の高い保育者養成を目指します。

河邊 貴子（教育学科 教授）



## 臨床心理士第一種指定大学院 に認定されました。

本学の大学院人間科学専攻「臨床心理学研究」領域は、これまで第二種指定大学院として臨床心理士養成に向けて努力して参りました。おかげで多くの修了生が教育や医療や産業の領域で臨床心理士として活躍しています。

この度「臨床心理学研究」領域は、財団法人臨床心理士資格認定協会から第一種指定大学院として認定されました。第一種と第二種は、前者が修了した年の秋臨床心理士の資格試験を受験できるのに対し、後者では修了後1年の実務経験を経て受験が可能になる点で異なります。修了生は一年早く資格が取得可能になった訳ですが、今後大学院における様々な手法の習得や実習をさらに充実させていきたいと考えております。

佐々木 正宏（心理学科 教授）

### 第一種

「臨床心理学研究」領域修了

修了した年の秋

「臨床心理士資格試験」受験資格取得



### 第二種

「臨床心理学研究」領域修了

1年間実務経験を経た後

「臨床心理士資格試験」受験資格取得



# 2018年度 聖心女子大学 新学寮が OPEN します

学寮が、新しくなります。イメージ図でなんとなく雰囲気は想像できていたと思いますが、ついに、南棟の陽光を受けてきらきら輝く白い壁が姿を現しました。学生たちは4月に入寮開始。年末年始の時期を除いて、一年中開寮します。

南棟の愛称は「もみじ寮」。隣の、まだ工事中で6月開寮予定の、背の高い北棟は「さくら寮」。本学3年生の松垣咲良さんが名付け親です。二つを繋ぐ中央棟（食堂）は12月完成予定（将来お昼には全学に開放します）。全てが揃うと、スタディールーム、フィットネスジム、防音のピアノセル、祈りの部屋、研修宿泊のできる和室、ファカルティールーム、・・・と、充実した設備の寮になります。

部屋は全て、プライベートの保たれる、個室。同じ扉が8つ並んで、その先には小さいけれどリビング。その向こうにはキッチンも。ここが、8人の共有空間。洗濯機も冷蔵庫もあります。洗面所もある。4年生から1年生まで。留学生も一緒に。1年をとともに過ごす、どんな仲間ができるのでしょうか。どんな仲間になるのでしょうか。いろんなことを、まずは自分たちで考え、運営していかねばなりません。苦楽を共にして、伸びやかに進んでいける、と信じています。

こんなユニットが44。300人を超える大きな寮です。新しい生活の場で、聖心生としての時間が新しく紡がれていきます。とてもとても、楽しみです。

学寮長 川津 誠



南棟「もみじ寮」(2018.2月撮影)

新学寮では、個室を持つ8人が共有空間をシェアして生活します。共有空間には、リビング・キッチン・洗面所・トイレ等の設備が整えられています。



リビング



キッチン



中央棟イメージ



個室

